

氷川前遺跡 第99-1地点 令和5年度調査範囲

| | |
|-----------|--|
| 遺跡名（よみがな） | 氷川前遺跡（ひかわまえいせき） |
| 調査地点 | 第99-1地点 令和5年度調査範囲 |
| 主な時代 | 縄文時代前期（約5,500～6,000年前）、弥生時代後期（約1,700～2,000年前）、平安時代（約1,000～1,150年前） |
| 調査地 | 富士見市大字水子1354の一部、1363の一部、他 |
| 調査面積 | 2332.9㎡のうち、令和5年度調査範囲777㎡ |
| 調査期間 | 令和5年10月10日～令和6年1月31日 |
| 調査内容 | <p>【確認された主な遺構】 縄文時代竪穴住居跡2軒、弥生時代竪穴住居跡19軒、平安時代竪穴住居跡1軒、溝跡1条、柱穴列1列 など</p> <p>【出土した主な遺物】 縄文土器、弥生土器、石器、土師器、須恵器、鉄製品（紡錘車・鎌）、自然遺物（貝殻など）</p> <p>【概要】</p> <p>水子貝塚公園を囲むようにして広がる氷川前遺跡は、富士見江川と新河岸川の合流地点の南側、武蔵野台地の縁に位置しています。旧石器時代から江戸時代に至る、多くの時代の遺構や遺物が見つかっており、とくに弥生時代後期～古墳時代初頭、平安時代の遺構が多く見つかることが知られています。</p> <p>本地点の令和5年度調査では、弥生時代後期（約1,700～2,000年前）の竪穴住居跡が19軒見つかりました。遺跡の西部で確認されていた弥生時代の集落が、遺跡の中央付近にも及んでいたことを示す調査結果です。</p> <p>縄文時代前期中ごろ（約5,500～6,000年前）の竪穴住居跡は2軒が確認され、うち1軒は小規模な貝塚を伴っていました。水子貝塚の環状集落とは、およそ同時期のものです。120mほど離れた距離にある水子貝塚のムラと、これらの住居がどのような関係性を持っていたのか、今後の調査成果も注目されます。</p> <p>平安時代の竪穴住居跡は1軒が確認されました。9世紀末～10世紀ごろ（約1,000～1,150年前）のものと思われます。鉄製の鎌や紡錘車（糸を紡ぐ道具）が出土しており、特筆されます。</p> |



発掘調査の様子

氷川前遺跡第99-1地点 令和5年度調査範囲 空撮写真

氷川前遺跡 第99-1地点 令和5年度調査範囲



縄文時代前期住居跡と貝塚、弥生時代の住居跡などが重なりあって検出された様子



縄文土器とヤマトシジミの貝殻が重なって出土した様子



4本の柱穴をもつ弥生時代住居跡



重なり合う2軒の弥生時代住居跡



まとめて出土した弥生土器（台付甕）と炭化材



埋設土器を伴う弥生時代住居跡



弥生土器（壺）が出土した様子



平安時代の住居跡から出土した鉄製の紡錘車